

100th 西成区 南津守小学校生涯学習ルーム  
絵本読み聞かせ るんるん

読み聞かせがつながる 子どもと地域活動



西成区は、今年区制100周年。南津守小学校は、2024年に一足早く100周年を迎えました。1994年に読書会としてスタートした集まりが、絵本の読み聞かせの活動になって22年。子どもたちと絵本を介して向き合ってきた活動から見えたもの、感じていることについて「絵本読み聞かせるるん」の代表 中島り子さん、メンバーのみなさんにお話をうかがいました。

12月の午後、児童いきいき放課後事業(通称:いきいき)の子どもたちが、生涯学習ルームにやってきました。月に一度の絵本の読み聞かせ、この日は「クリスマス会」。絵本の読み聞かせの後に、サンタさんもやってきました。



活動は「はじまるよ」の手遊び歌からはじまります

泉さん「最初は読書会で、自分らで読んでその感想を書くような活動をしてたんです。それから自分だけのためにやってる読書会というのが物足りなくなっ、せっかく学校でやってるんだから学校で子どもたちのためになるようなことができないかなということ、絵本を読み聞かせしたらいいじゃないかという形で始まったんです」

南津守小学校の全学年に授業の一環としておこなっている絵本の読み聞かせ。なんと17年間も続いているのだそうです。

泉さん「年に3日間設定しました。2学年(1・2年、3・4年、5・6年)ごとに集まってここ、多目的室でやります。1年に1回聞いて育っていくわけです。最初の頃はみんなザワザワして

るんですけど、学年が上がっていくにしたがって、真面目に聞いてくれるようになっていきました。プログラムを考える時も真面目な話とちょっとみんながワッと湧くような話を混ぜて組むようにしてるんです。じゃないとみんな飽きてしまうんで」

中島さん「すごいなと思ったのは正規の授業の中で1時間枠1回、しかも6年生までやってるっていうのがやっぱり大きいなと。それは先輩たちがずっと積み重ねた中で、そういう場所を得られるようになったんだなって思いました」

南さん「5、6年生が一番集中してるね」

櫻井さん「家で読み聞かせすると保護者の気に入った本を読むっていうのもあるし、子どもの個性が出てきたらそれに合わせた本を選びがちじゃないですか。私もそうでした。読み聞かせでみんなで一緒に、たくさんの中で聞かせるのはすごくいいところじゃないかなって思います」

三尾さん「私はちょっと変わった本を読んでもらうけど、どういう風に読んだらええかな、

どうやったらウケてもらえるかなと思って工夫して読んでます。子どもたちに助けてもらって、「今日もうれしいな」って、いつも帰ってる。あと勉強なるなと思って」

南さん「練習で読んでたら感情移入して、どんどん深まっていくというか。それを読み終わった後なんかしばらくロスになる」

三尾さん「読みながら笑ってるもんね、自分で。子どもたちが喜んでくれると、気持ちに残ったかなって。いつも子どもたちに助けてもらって、本当にここは楽しい場です」



小畑さん「私の子どもが現役でこの小学校に通ってます。子どもがまだ赤ちゃんの時にこういう活動してるっていうのを知って、自分も絵本好きだし子どもが好きだったので、(活動)できたらいいなと。個人的に小さい子に読み聞かせしたことはたくさんあるんですけど、小学生の読み聞かせってどうするん

やるって、最初はドキドキしてたんですけど、意外と聞いてくれるんやなって。足伸ばして聞いても、ところどころしゃべってもリラックスして聞ける。保護者が読む・読まないで子どもたちの会おう本とか経験って違うけど、普段絵本とか全然読まない子たちも、終わってみたら「これ、おもしろかった」って言うのを聞いて、みんなで読む魅力なのかなってすごく感じていて、ありがとうございますって、いつも思ってます」

泉さん「同じ本を保育所で聞くと、小学校に入って聞くとまた感じ方が違うんですね。だから聞き入ってるんですね。年齢によって感じ方が違うもんやから、一生懸命聞いてくれる」



大型絵本やかみしばい、パネルシアターもやります

るんるんは学校や図書館、「西成区子ども・子育てプラザ」、他にも高齢者施設などさまざまな場所で活動しています。

泉さん「施設へは大人用の絵本じゃなしに子ども用の絵本を持って行って。お年寄りが一生懸命聞いてくれます」

栢見さん「旗持って公園に行ったこともありました」

泉さん「自転車で公園まわって・・・「今から絵本始めます」って言いながら遊んでる子ども集めてきて、突発的にやる。それでもみんな聞いてくれていました」



若いメンバーがふえてほしいけれど 中島さん「若い方も何人か入ってきてくださってるんですけど、続けてくれるかなって不安はあります。今はこの活動を維持するだけで手いっぱいなんですよ。役所の方からもこんな活動していただけますか?という話がコロナ以降入ってきたりしてたんですけども「ちょっと無理ですね」って返事が多々あります」

小畑さん「お誘いする人ってPTAやってはったり地域で何かしてはる方で、これ以上は無理だなみたいになるので。若い人でも絵本好きな人とか、以前に子どもに携わる仕事をした人とか、たぶんいると思うんですが・・・」

泉さん「子どもさんの習い事の送り迎えとかで、土日になると出てこれないってなるし。子育てにひと段落ついた年代でないとなかなか活動は難しい」

子どもの時分から地域活動を身近に

泉さん「最近ではマスクしてるからわからへんけど、それまでは、たまに中学生とか高校生の子が「るんるんのおっちゃんや」って、道とか公園で声をかけてくれました」

小畑さん「うちはお姉ちゃんが今、中学生なんですけど、6年生の時に「(るんるんの活動は)中学校ではおこなっていないため)来年からるんるんなくなる」って言ったら、同級生が「ええ〜」って言ったんですって。すごい楽しみにしてるとかじゃないけど「ああ、なくなるんやな、もう見られへんねや」って。中学校に入るとバシッと(地域の活動と)つながりが切れちゃうからそこがすごく残念です。細くて

もつなげてたら。中学生が小学生に読み聞かせをするボランティア活動とかがあったらなって思うことがあります。中学生のボランティア活動を推奨してやれないかな」



今回の紙芝居の候補作、みんなの意見をききます

やはり活動は楽しい・うれしい

栢見さん「私80歳になるんですけど「(るんるんに)ずっと入れといてや」って入れてもらってます。楽しいですよ、絵本読むのもこの集まりも」

泉さん「感想文もらったら「あの本がおもしろかったので今度図書室で探してみます」とか、そういう風に書いてくれるんですよ。そういうのを見ると、やって良かったなあって思います」



取材後記

読み聞かせをする人と、それを聞く子どもたちの「息が合った」様子にあなたな感銘を受けました。読み聞かせは5冊ほど、時間にして30分。子どもたちの集中力を切らさないために、バラエティに富んだ選書の準備をし子どもたちは絵本の世界を楽しむところを一年一年育てていく。このように、子どもたちが学校の中で、外で、地域活動に触れて、地域への愛着や親しみを持ち、異なる世代の地域の人々と交流する機会を、さらにつなげて、地域活動を広げていくことができれば!と願わずにはいられませんでした。るんるんのみなさん、ありがとうございました。

2024 10/27(日)開催

フォトダイジェスト

2024 大阪市生涯学習ルーム

ふえすていばる

オープニングセレモニー

会場/難波市民学習センター

作品展示

設営

受付

ステージ

体験コーナー

わんすてつぽ・フォーラム

生涯学習推進員のみなさん準備から、設営、撤収まで本当にお疲れさまでした!